

観光英語（12）：京都市の観光名所、龍安寺、仁和寺、賀茂御祖神社、賀茂別雷神社に見られる案内板の英語

福島 一人

Tourism English (12) : The English Found on Signs in Popular Tourist Sites, the *Ryouan-ji*, the *Nin'na-ji*, the *Kamo-mioya-jinja* [-shrine], and the *Kamo-wakeikadzu[du]chi-jinja* in the City of Kyoto

Kazundo Fukushima

Abstract

Because the Tokyo Olympic & Paralympic Games are to be held in 2020, more and more foreign tourists are expected to visit Japan. The English signs in Japan's popular tourist sites have to be increased in number and improved in quality so that the tourists will be able to enjoy fruitful and profitable trips to those sites.

Following Fukushima (2017.1), this paper, as a case study, examines the English found on signs in the popular tourist sites in the city of Kyoto, such as the *Ryouan-ji* [-temple], the *Nin'na-ji*, the *Kamo-mioya-jinja* [-shrine], and the *Kamo-wakeikadzu[du]chi-jinja*.

The signs discussed here are also those which indicate the general summarized information about these sites.

The methods of writing the explanatory notes and Japanese names of the places, persons, or things will in principle follow Fukushima (2015.7), (2015.9), (2016.7) and (2017.1).

1. はじめに

2020 東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、さらなる外国人観光客の増加が見込まれ、日本の観光地においては、特に国際語である英語案内板の質的・量的^{註1)}充実が望まれるようになってきている。このことは、日本人観光客の増加にもつながるであろう。

本稿は、事例報告として、福島（2017.1）に引き続き、京都市の観光名所である龍安寺、仁和寺、賀茂御祖神社、賀茂別雷神社に見られる英語案内板に検討を加える。

検討を加える案内板は、当該観光名所の「全体にわたって概略を説明」（以後、「包括的説明」）を行うものとする。

綴字面などを含めた日本語の英文字表記法については、福島（2015.7）、（2015.9）、（2016.7）、（2017.1）の提案に従う。

2. 京都市観光名所の案内板

世界的に有名な観光地であり、外国人観光客の数が日本一と言えよう。「おはよう日本」(NHK 総合 2014.7.3)によるとアメリカの旅行雑誌 *TRAVEL + LEISURE* 社も旅行で訪れたい都市の1位に評価しているそうである。四季を通じて多くの観光客が訪れる。市内を循環するバスなど、交通の便が充実している。

京都府ホームページには、「世界文化遺産 古都京都の文化財一覧」として17か所が挙げられている。本稿では、福島(2017.1)に引き続き、これらのうちで人気があると言われる4つの観光名所、龍安寺、仁和寺、賀茂御祖神社、賀茂別雷神社に見られる、包括的説明を行う案内板について検討を加える。画像は、すべて、2016年2月以後、つまり、観光庁指針が出された2014年3月より後に本稿執筆者自身が撮影したものである。

1



2



3



2. 1 龍安寺

画像1の、「石庭 (せきてい)」は龍安寺の代名詞的存在である。狭い空間であるが、京都で有名な景観と言えり。龍安寺の「方丈」内に「石庭」が存在する。画像2は龍安寺の「包括的説明」を含む案内板である。京都市作成のものである。1、2共に、2016年6月17日に本稿執筆者が撮影したものである。

2の「世界遺産登録」、「登録年月日」、「包括的説明」を含めた案内板は、「方丈 (本堂)」に通じる石段の上り口付近に存在する。以下、「包括的説明」を行う部分を「本文」とする。2は、

3の古い案内板と共に見られる。3では、豊臣秀吉や徳川家康の関与、「方丈」内に見られる徳川光圀寄進の「手水鉢」や「寺宝」についても記述されている。

本稿では、福島(2017.1)に準じ、「世界遺産登録」、「本文」、「登録年月日」を含めた案内板の、「本文」中の英語を中心に論じる。

2の日本語説明と英語説明は内容が一致する。「世界遺産登録」と、「登録年月日」の記述は、福

島(2017.1)で挙げた「清水寺」、「鹿苑寺」、「慈照寺」と、当該観光地の名称以外共通している。

双方共に、本文は情報量がやや少ない、と言えよう。因みに、英語説明の、「世界遺産登録」と「登録年月日」を除いた、「本文」は138語である。

日本語説明は、以下の通りである。福島(2017.1)に準じ、「龍安寺」の文字サイズを大きくし、太字にすること、(振り仮名)を入れることを提案する。

龍安寺(りょうあんじ)は、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)で採択された世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約に基づき、「古都京都の文化財」のひとつとして世界遺産リストに登録されました。このことは、人類全体の利益のために保護する価値のある文化遺産として、とくに優れて普遍的価値をもっていることを国際的に認められたこととなります。

龍安寺は、貴族の別荘の地を宝徳2年(1450)に禅寺としたものであり、長享2年(1488)に方丈(ほうじょう)が復興されて諸堂が整備されました。その後、寛政9年(1797)に焼失したため、慶長11年(1606)に造営された西源院方丈を移築したものが現在の方丈(本堂)です。

方丈の南側に広がる方丈庭園は、15世紀中期には造られていたものと考えられています。東・南・西面を築地塀で囲まれた矩形(さしがた)の石庭で、白砂敷のなかに5群15個の石組が配されています。自然を狭い空間に圧縮し、抽象化して表現する枯山水(かれさんすい)庭園の極限的な姿であり、世界的にも著名です。

登録年月日 平成6年(1994)12月15日決定、17日登録
京都市

英語説明は以下の通りである。「世界遺産登録」、「登録年月日」の記述を除いた「本文」は、2段落5文、138語からなる。共通名詞句を分詞構造で説明し、さらに関係詞節で説明する長文化の例が見られる。「本文」中の文末の赤い数字は執筆者による。

In conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO), Ryoanji Temple is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto. It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of all of mankind.

Ryoanji Temple, originally an aristocrat's country villa, was converted into a Zen temple in 1450.¹ In 1488, the Hojo (abbot's quarters) was restored, and repairs were made to the other temple buildings.² When these were destroyed by fire in 1797, the Seigen-in Temple's abbot's quarters, built in 1606, was relocated to Ryoanji Temple; this structure is the present Hojo, which serves as the main hall of the temple.³

The temple garden, which lies on the Hojo's south side, is thought to date from the mid-15th century.⁴ A rock-and-gravel garden comprising 15 rocks in five groupings, arranged on a bed of white gravel, it is renowned throughout the world as the ultimate example of the *Karesansui* or "dry landscape" style rock garden, in which

福島 一人：観光英語 (12)：京都市の観光名所、龍安寺、仁和寺、賀茂御祖神社、賀茂別雷神社に見られる案内板の英語

nature is compressed and given abstract expression within the confines of a very narrow space.⁵

Date of Inscription Resolved on December 15 and inscribed on December 17, 1994.

Kyoto City

日本語説明、英語説明共に、第一段落の「世界遺産登録」の記述は、福島 (2017.1) で挙げた寺院と共通する文体である。また、最後の「登録年月日」についても、他の世界遺産と共通している。英語説明文中の「世界遺産登録」の記述について、福島 (2017.1) では、当該観光地の名称を文頭にし、“**...for the benefit of people all over the world.**” で終えることを提案した。また、文頭に置いた観光地名に通称がある場合、“(popularly called...)” を補うことを提案した。本稿でも同じ提案を行う。

尚、「登録年月日」の記述については、加筆修正案はない。

日本語説明では、各段落共に、1文字分、英語説明では、3文字分スペースを空けていることに賛成できる。

「世界遺産登録」、「登録年月日」を除いた「本文」の記述について、日本語説明、英語説明共に、「龍安寺と構成素である方丈の歴史」→「現在見られる、方丈庭園、特に「売り」^{註2)}である石庭の説明」→「石庭の意味」の順に記述している。つまり、篠田 (2014) における、「時間順」の記述である。^{註3)} 作成者が歴史面に重点を置き説明していることがわかる。「古都京都の文化財」のひとつとして、世界遺産に登録されているので当然のことであろう。従って、この記述順について賛成できる。しかし、総じて、日本語説明、英語説明共に、「本文」が「やや短い」、「情報量がやや少ない」と感じられる。画像3の案内板に見られる「手水鉢」や「寺宝」などの情報を加えるべきであろう。

他の世界遺産建造物と共通する「世界遺産指定」の記述について加筆修正案をまず挙げた後、「本文」に検討を加える。太字は福島の加筆修正案を加えたものである。

「世界遺産登録」の記述は、以下を提案する。福島 (2015.7)、(2015.9) に従い、“*ji*” が “*temple*” を意味することを明示する。福島 (2017.1) に準じ、当該観光地の名称を文頭に置く。後ろの “*for the benefit of all of mankind*” を “**for the benefit of people all over the world**” と、より平明にする。

The Ryuan-ji [-temple] is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto, in conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO). It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of people all over the world.

以後、「仁和寺」「賀茂御祖神社」「賀茂別雷神社」もこの修正案に準じる。

「龍安寺の石庭」、「石庭の龍安寺」は、京都を訪れる日本人観光客には知れ渡っている。「本文」の前に、副題として以下を記すことを提案する。

“--Seki-tei (the rock-and-gravel garden), A Synonym for the Ryouan-ji--”

本文について検討を加える。部分的に画像3の案内板を参照し情報を追加する。

原文1について、3の案内板の内容を取り入れ、「元は貴族の別荘として造られた」、「1450年に禅寺となり、龍安寺と名付けられた」という内容を理解し易いように2文に分ける。福島(2017.1)に合わせ、“**The site on which the Ryouan-ji now stands....**”で始める。

原文2について、“...were made to...”ではなく、“...were made **on**...”である。それよりも、動詞“**repair**”を使用し、“**...and then many other temple buildings were repaired.**”とする。

原文3について、江戸時代における龍安寺の建造物の焼失と、「方丈」の意義について、述べている。しかし、いきなり江戸時代の記述で、簡略化し過ぎと思われる。画像3の案内板中の、「応仁の乱での焼失」、「細川勝元による再興」について加筆するべきと思われる。現在の「方丈」を別段落にすることも含め、4文で記述することを提案する。

原文4について、“which lies on...”「方丈(内)の南」、あるいは、“which lies to...”「方丈(外)の南」かの疑問が生ずるが、原文のままが良いと思われる。因みに、Mr. Martinに画像1を見せたところ、「どちらでも構わない」という評価であった。

原文5について、“A rock-and-gravel garden...”をまず挙げ、それをさらに代名詞“it”で受け、主語としている。一種の強調語法であるが、案内板には馴染まないように思われる。また、“comprising 15 rocks in five groupings”、“arranged on a bed of white gravel”の分詞構造が、“A rock-and-gravel garden”を説明しており、さらに関係詞節“in which...”で、「石庭」の意義を述べている。原文5は、長文であり、一般観光客には読みづらい。4文に分けるべきである。「石庭」の詳細を表す3文を別段落にする。

原文には見られないが、画像3の案内板の情報である、「水戸光圀寄進の手水鉢」、「寺宝」の内容を簡略に、段落分けして、加筆する。

龍安寺の、修正案を加えた「世界遺産登録」「本文」の記述と、「登録年月日」の記述は以下の通りである。「本文」の修正案の語数は、副題を含め、281語である。「登録年月日」には、加筆修正を加えていない。

The Ryouan-ji [-temple] is inscribed on the World Heritage List as a Historical Monument of Ancient Kyoto, in conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO). It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of people all over the world.

--Seki-tei (rock-and-gravel garden), A Synonym for the Ryouan-ji--

The site on which the Ryouan-ji now stands was originally built as an aristocrat's villa. It was converted into a Zen temple in 1450, and was given its present name, the Ryouan-ji . The Hou-jou (abbot's quarters) was restored in 1488, and then many other temple buildings were repaired. All these

Seki-tei (rock-and-gravel garden)



buildings were damaged by fire during the *Ouin-no-ran* [-wars] (1467-77). They are said to have been restored by Hosokawa Masamoto. However, all these buildings were destroyed by fire again in 1797.

The present *Houjou*, which serves as the main hall of the *Ryuan-ji*, was once that of the *Seigen-in* [-temple]. It had been built in 1606, and relocated to the site of the *Ryuan-ji*.

The temple garden, which lies on the south side of the *Houjou*, is thought to date from the mid-15th century. It is popularly called the *Seki-tei* (rock-and-gravel garden) and the selling point of the *Ryuan-ji*.

The *Seki-tei* is comprised of 15 rocks in five groupings which are arranged on a bed of gravel. It is well-known throughout the world as the typical example of the *Kare-sansui* (“dry landscape”) rock garden. In the garden we can see nature compressed and giving abstract expression within the limited space.

To the east side of the *Houjou*, we can also find the *Chouzu-bachi* (washbasin), which is said to have been contributed by Tokugawa Mitsukuni, a famous lord of the *Mito-han* [-clan], one of the three major Tokugawa families.

The *Ryuan-ji* possesses a set of 12 volumes of the *Taiheiki* (“Records of Great Peace”) as its treasure. It is designated as an important cultural property.

Date of Inscription Resolved on December 15 and inscribed on December 17, 1994.

Kyoto City

2. 2 仁和寺

画像4は仁和寺の「二王門 (におうもん)」である。一般道に面し、タクシーの乗降が可能である。5は、かつては、4の付近、境内の外に存在していたが、2016年6月撮影時には、境内、「二王門」を入ったところで見られた。6は、2017年3月に撮影した、国宝の「金堂」である。

4



5



6



5の日本語説明と英語説明は内容がほぼ一致する。双方共に、情報は適量と言えよう。但し、日本語説明文中の「正面7間、側面5間の」と具体的に「金堂」の大きさを表す部分は、英語説明文中には存在しない。

因みに、英語説明文中の、「世界遺産登録」と「登録年月日」を除いた「本文」の語数は188語である。

日本語説明は以下の通りである。説明文中の「仁和寺」の文字サイズを大きくし、太字にすること、(振り仮名)を入れることを提案する。

仁和寺(にんなじ)は、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)で採択された世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約に基づき、「古都京都の文化財」のひとつとして世界遺産リストに登録されました。このことは、人類全体の利益のために保護する価値のある文化遺産として、とくに優れて普遍的価値をもっていることを国際的に認められたこととなります。

仁和寺は、仁和4年(888)に宇多天皇により完成した勅願寺で、また皇子・皇孫が門跡(もんぜき)を務めたことから門跡寺院の筆頭とされて、「御室(おむろ)御所」といわれています。

応仁の乱(1467~77)により全伽藍を焼失しましたが、寛永18~正保元年(1641~44)に再興され、このとき当時御所にあった紫宸殿(ししんでん)と常御殿(つねごてん)が移築されて、それぞれ金堂と仁和寺御殿(明治20年焼失)に転用されました。また清涼殿の古材を用いて御影堂(みえどう)が造営されたほか、二王門・中門・五重塔などが建てられ、境内の整備が進められました。現在見られる伽藍は、主としてこのときのものです。

金堂は正面7間、側面5間の大規模な建物で、屋根が檜皮葺(ひわだぶき)から本瓦葺(ほんかわらぶき)へ改められているものの、蔀戸(しとみど)をめぐるなど桃山時代の宮殿建築の趣をよく伝えています。

登録年月日 平成6年(1994)12月15日決定、17日登録
京都市

英語説明は以下の通りである。「世界遺産登録」、「登録年月日」の記述を除いた「本文」は、3段落7文、188語からなる。セミコロンやand、また、分詞構文による長文化の例が見られる。「本文」中の文末の赤い数字は執筆者による。

In conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO), Ninnaji Temple is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto. It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of all of mankind.

福島 一人：観光英語（12）：京都市の観光名所、龍安寺、仁和寺、賀茂御祖神社、賀茂別雷神社に見られる案内板の英語

The construction of Ninnaji Temple was initiated by imperial command, and was completed in 888 under Emperor Ueda.¹ Also called the Omuro Palace, Ninnaji Temple became the foremost temple of the *monzeki* tradition, whereby an imperial son or other member of the imperial family served as the temple's abbot from generation to generation.²

Ninnaji Temple was destroyed by fire in the Onin War (1467-77), but was rebuilt between 1641-44.³ For this restoration, the Shishin-den (Main Hall for State Ceremonies) and Tsune-goten (Private Palace) of the imperial palace were relocated to Ninnaji Temple and became, respectively, the Kondo (Main Hall) and Ninnaji Palace (destroyed by fire in 1888).⁴ Other buildings in the temple compound include the Mie-do, built from the wood of the Seiryō-den of the imperial palace; the Niomon and Chumon gates; and a five-storied pagoda.⁵ The majority of the temple buildings at Ninnaji Temple date from this 17th-century restoration.⁶

The original Japanese cypress-bark roof of the large Kondo has given way to a *hongawara-buki* tiled roof, and the building is enclosed by *shitomi-do* or top-hinged, outswinging windows, evoking the ambience of Momoyama-period (1573-1614) palace architecture.⁷

Date of Inscription Resolved on December 15 and inscribed on December 17, 1994.

Kyoto City

「世界遺産登録」、「登録年月日」を除いた「本文」の記述について、日本語説明、英語説明共に、「仁和寺の誕生」→「応仁の乱での焼失、江戸時代での再興」→「現存する構成素である本殿、仁和寺御殿、御影堂、二王門、中門、五重塔など」→「金堂の詳細」の順に記述している。しかし、英語説明では、「金堂」の大きさについて記述していない。「正面7間、側面5間」の日本の寸法を英語化することが難しかったことが原因と考えられる。記述順は、篠田（2014）における、「時間順」である。作成者が歴史面に重点を置き説明していることがわかる。「古都京都の文化財」のひとつとして、世界遺産に登録されているので当然のことであろう。従って、この記述順について賛成できる。日本語説明、英語説明共に、「本文」の情報量は適量と感じられる。

「世界遺産登録」の記述については、福島（2017.1）で提案した文体に合わせる。当該観光地の名称を文頭にする。

「世界遺産登録」の記述は、以下を提案する。福島（2015.7）、（2015.9）に従い、“*ji*”が“temple”を意味することを明示する。つまり、「仁和寺」を“**the Nin’na-ji [-temple]**”と表記する。“**The Nin’na-ji [-temple] is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto, in conformity with....**”と、当該観光地の名称を文頭に置く。後ろの“for the benefit of all of mankind”を“**for the benefit of people all over the world**”と、より平明にする。

「勅願寺」ということが、重要である。「本文」の前に、副題として以下を記すことを提案する。

--Temple Constructed by the Imperial Request--

本文について検討を加える。

原文1について、“was initiated”を平易にし、“was begun”とする。「勅願」を柔らかくし、“the imperial request”とする。

原文2について、分詞構文の箇所は、前文の結果的内容として解釈したほうがよいかも知れない。従って、“So it was also called the Omuro-gosho (imperial palace).”と独立させる。日本語説明では、「(出家した)皇子・皇孫が門跡(=住職)を務めた」であるので、「門跡寺院」の説明を、原文より簡明に文として独立させ、“The Nin’na-ji became the foremost monzeki-jiin. The monzeki-jiin was a temple whose abbot was an Imperial Prince or other member of the Imperial Family.”とする。

原文3について、「応仁の乱による焼失、江戸時代における再興」は、福島がこれまで提案した表記法に従い、“The Nin’na-ji was destroyed by fire during the Ouni-no-ran [-wars], but was rebuilt between 1641-44.”と表記する。そして、段落として独立させる。それ以下の(江戸時代における)再興の詳細(原文4、5、6)はさらに別段落とする。

原文4について、「紫宸殿と常御殿が仁和寺に移築されたこと、それぞれが金堂と仁和寺御殿になったこと、仁和寺御殿は1888年に焼失したこと」が記されている。“...and became, respectively, the Kondo (Main Hall) ...”としているが、「移築したこと」で文を終え、「名称が変わったこと」、「仁和寺御殿は1888年に焼失したこと」を文として独立させる。「仁和寺御殿の焼失」を()内に表記しているが、「金堂」の内容説明“(Main Hall)”が前にある。内容説明の“(Main Hall)”と異なるので、「仁和寺御殿の焼失」という付加説明は、関係詞節を使用して説明する。説明部分は“(main hall)”と、2語共、小文字で始めることを提案する。

原文5について、“; the Niomon and Chumon gates; and a five-storied pagoda.”とセミコロンを2つ用いて記述している。セミコロンは、重文の独立節同士を結び付けるのが普通である。「御影堂(みえどう)」の説明部分を分詞構造でなく、関係詞節を使用した方が、簡明になると思われる。このことによって、「御影堂」と、「二王門」、「中門」、「五重塔」との並列関係が阻害されることはないように思われる。

原文6について、“The majority of the temple buildings at Ninnaji Temple”は、“The majority of Nin’na-ji’s buildings”で足りるであろう。

原文7について、日本語説明では、「金堂は正面7間、側面5間の大規模な建物で、」と具体的に大きさが記されているが、英語説明には記されていない。一般的には、1間=6尺=181.3cmとなる。『広辞苑』の記述も1間=6尺と思える。これに従えば、「金堂」は、正面(幅)1272.6cm+柱の太さ8本分480cm?、つまり、12.726m+4.8m?である。側面(奥行)は9.09m+柱の太さ6本分3.6m?である。この大きさの建造物を「大規模な建物」とはとても言えない、という思いから英語説明では具体的な大きさを記さなかったと推測できるのだが。画像6からもその数値を越える建造物であると思われる。しかし、『精選版 日本国語大辞典』によれば、「平安時代には住宅の柱間は10尺程度で....」という記述が見られる。これに従えば、「金堂」は、正面(幅)は、2121cm+480cm?、つまり、21.21m+4.8m?である。側面(奥行)は15.15m+3.6m?である。執筆者が金堂の正面の大きさを歩幅によって確かめたところ、正面は23m程度(屋根を含まず)であった。

後日、現地の仁和寺金堂の職員に確かめたら、正面7間のうち、3カ所が1間13.5尺、4カ所が1間10.5尺であった。正面、24.996mとなる。側面5件のうち、3カ所が13.5尺、2カ所が10.5尺であった。側面18.633mとなる。屋根を含む大きさは、不明とのことである。本来、「間」は柱と柱の間の間隔である。正面に柱は8本、側面に6本となるが、柱の太さを考えると、柱の太さも含まれた数字ではないかと思われる。

屋根を含めた、実測値を知りたい。正確なメートル法による実測値を現地が挙げるのが望まれるが、本稿では画像を参考にし、屋根を含めた推定の数字を挙げる。“**The large Kon-dou is about 30 meters across and 24 meters long from front to back.**”を第三段落始めに、加筆することを提案する。

原文7について、最初に“**The large Kon-dou**”から始まる加筆部分があるので、“The original Japanese cypress-bark roof of the large Kondo has given way to a *hongawara-buki* tiled roof, and the building is enclosed by *shitomi-do* or top-hinged, outswinging windows,....”を“**Its roof was originally the *Hiwada-buki* (built of cypress-bark), and then was changed into the *Hongawara-buki* (tiled) roof. The Kon-dou has the *Shitomi-do* (overhung windows [doors]).**”と2文に独立させる。「檜皮葺 (ひわだぶき)」を英文字表記し、“(built of cypress bark)”と説明する。「本瓦葺 (ほんがわらぶき)」を“(tiled)”と説明する。「蔀戸 (しとみど)」については、福島 (2015.1) で挙げた、城郭の「突き上げ窓 [戸]」に相当するであろう。“or top-hinged, outswinging windows”の“outswinging”は意味が分からない。福島のこれまでの提案に従い、() 内に説明部分を入れ、かつ、平易に“(overhung windows [doors])”とし、独立させた文で説明する。“[doors]”としたのは、時として人の出入りに使用される可能性があるからである。原文に近いスタイルで、“(top-hinged swinging windows [doors])”とすることも考えられる。結果用法と考えられる分詞構文 “evoking the ambience of Momoyama-period (1573-1614) palace architecture”は“**They evoke an atmosphere of the Momoyama-jidai [-period] palace architecture.**”と独立した文にする。“the ambience”は“an atmosphere”と「(一種の) 雰囲気」という意味も込め、平易にする。

仁和寺の、修正案を加えた「世界遺産登録」「本文」の記述と、「登録年月日」の記述は以下の通りである。「本文」の修正案の語数は、副題を含め、218語である。「登録年月日」には、加筆修正を加えていない。

The *Nin'na-ji* [-temple] is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto, in conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO). It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of people all over the world.

Temple Constructed by the Imperial Request

The construction of the *Nin'na-ji* was begun by the imperial request and was completed under Emperor Ueda in 888. So it was also called the *Omuro-gosho* (Imperial palace). The *Nin'na-ji* became the foremost *monzeki-jiin*. The *monzeki-jiin* was a temple whose abbot was an Imperial Prince or other member of the Imperial Family.

The *Nin'na-ji* was destroyed by fire during the *Ouni-no-ran* [-wars], but was rebuilt between 1641-44.

During this restoration, the *Shishin-den* (main hall for states ceremony) and the *Tsune-goten* (private palace) of the *Gosho* (imperial palace) were relocated to the *Nin'na-ji*. They respectively became the *Kon-dou* (main hall) and the *Nin'na-ji-goten* (palace), which was destroyed by fire in 1888. Other buildings in the temple compound are the *Mie-dou*, which was built of the wood used in the *Seiryouden* building, a part of the imperial palace, the *Niou-mon* (Deva gate) and the *Chuu-mon* (middle gate),

Kon-dou (main hall)



and the *Gojuu-no-tou* (five-storied pagoda). The majority of *Nin'na-ji's* buildings date from this 17th-century restoration.

The large *Kon-dou* is about 30 meters across and 24 meters long from front to back. Its roof was originally the *Hiwada-buki* (built of cypress-bark), and then was changed into the *Hongawara-buki* (tiled) roof. The *Kon-dou* has the *Shitomi-do* (overhung windows [doors]). They evoke an atmosphere of the *Momoyama-jidai* [-period] palace architecture.

Date of Inscription Resolved on December 15 and inscribed on December 17, 1994.

Kyoto City

2. 3 賀茂御祖（かもみおや）神社（通称、「下鴨神社」）

7



8



画像7は、賀茂御祖（かもみおや）神社（通称、「下鴨神社」）の楼門（ろうもん）である。賀茂御祖神社は、賀茂別雷（かもわけいかづち）神社（通称、「上賀茂神社」）と共に、京都市で観光客が多い神社である。画像8は、賀茂御祖神社の京都市作成の案内板である。7、8共に、2016年11月に執筆者自身が撮影したものである。

8は、楼門を臨める鳥居の脇に存在する。日本語説明と英語説明は内容が一致する。

日本語説明は、以下の通りである。福島（2017.1）に準じ、（通称、「上賀茂神社」）を入れ、「賀茂御祖（かもみおや）神社」の文字サイズを大きくし、太字にすること、（振り仮名）を入れることを提案する。

賀茂御祖（かもみおや）神社（通称、「下鴨神社」）は、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）で採択された世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約に基づき、「古都京都の文化財」のひとつとして世界遺産リストに登録されました。このことは、人類全体の利益のために保護する価値のある文化遺産として、とくに優れて普遍的価値をもっていることを国際的に認められたことに

福島 一人：観光英語 (12)：京都市の観光名所、龍安寺、仁和寺、賀茂御祖神社、賀茂別雷神社に見られる案内板の英語
なります。

賀茂御祖神社の旧境内地では、発掘調査により縄文時代の遺跡が発見されており、当神社が歴史的に重要な場所に位置していることが早くから知られています。

平安京造営にあたっては国家鎮護の神社として朝廷の崇敬を集めており、11世紀初頭には現在に近い姿に整えられました。その後14世紀はじめまでは式年造替が実施されていましたが、応仁・文明の乱により、境内は、当時広大な原野であった糺の森（ただすのもり）の樹林とともにほとんどが焼亡しました。

天正9年（1581）の造替の時境内全体に整備が進められて平安時代の状況が再現されました。江戸時代に入って本殿は8回造替され、現在の東本殿・西本殿は文久3年（1863）の造替の時のものです。流造り（ながれづくり）の本殿は古い形式をよく残しています。境内にはこれらの他、寛永6年に造替された祝詞舎（のりとや）以下の建物が残り、当時の神社景観を現在に伝えています。

当神社は、京都三大祭りのひとつである葵祭が行われるなど古代の祭事や芸能を継承し、また境内の糺の森（ただすのもり）は、四季に移り変わる林泉の美と幽すが、「源氏物語」をはじめ数々の文学に語りつがれ市民の憩いの場となっています。

登録年月日 平成6年（1994）12月15日決定、17日登録
京都市

英語説明は以下の通りである。「世界遺産登録」、「登録年月日」の記述を除いた「本文」は、4段落9文、287語からなる。セミコロンやandによる長文化の例、二重の分詞構造による長文化の例が見られる。本文中の文末の赤い数字は執筆者による。

In conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO), Kamo Mioya Shrine is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto. It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of all of mankind.

It has long been known that the Kamo Mioya Shrine was located in a spot of great historical significance: archaeological excavations at the original site of the shrine complex have turned up relics from the Jomon period (ca. 10,000 B.C.- ca. 300 B.C.).¹

As a shrine dedicated to the pacification and protection of the nation during the establishment of the Heian-kyo capital, Kamo Mioya Shrine counted numerous worshippers among the aristocracy.² It existed in its present form by the beginning of the 11th century, and was ritually rebuilt at regular intervals thereafter; however, most of the shrine buildings were burned to the ground during the Onin War (1467-77), together with the surrounding forest, Tadasu no Mori.³

In the reconstruction that took place in 1581, the entire shrine was restored to its Heian-period condition.⁴ The *Honden* (main shrine building) has been rebuilt eight times since the beginning of the Edo period (1600-1867), and the present east *Honden* and west *Honden* date from the last such reconstruction, carried out in

1863.⁵ The *Honden* is built in the *nagare* or “flowing” style, and retains very clearly the ancient forms.⁶ Other extant shrine buildings, including the *noritoya* (ritual prayer hall), rebuilt in 1629, evoke the aura of the Shinto shrines of that era.⁷

Kamo Mioya Shrine carries on the traditions of various ancient arts, rites, festivals, including the *Aoi Matsuri*, one of Kyoto’s “Three Major Festivals”; and tales of the shrine’s grove of Tadasu no Mori and its placid, sequestered natural beauty, which changes moods with the changing seasons, have been handed down in *The Tale of Genji* and innumerable other works of literature.⁸ It remains a place of calm, rest, and relaxation for local residents.⁹

Date of Inscription Resolved on December 15 and inscribed on December 17, 1994.

Kyoto City

「世界遺産登録」、「登録年月日」を除いた「本文」の記述について、日本語説明、英語説明共に、「賀茂御祖神社の歴史（特に、縄文時代まで遡れること）」→「応仁・文明の乱での焼亡（糺の森と共に）、江戸時代での再興」→「現存する構成要素である東本殿、西本殿、祝詞舎など」→「葵祭をはじめ、現在も行われている神社の祭事」の順に記述している。つまり、篠田（2014）における、「時間順」の記述である。作成者が歴史面に重点を置き説明しており、「古都京都の文化財」のひとつとして、世界遺産に登録されているので当然のことであろう。従って、この記述順について賛成できる。日本語説明、英語説明共に、「本文」の情報量は適量と感じられる。

世界遺産登録」の記述は、以下を提案する。「賀茂御祖神社（通称「下鴨神社」）」の英文字表記を文頭ににする。“*jinja*”が“*shrine*”を意味することを明示する。当該観光地の名称を文頭に置き、“**The Kamo-mioya-jinja [-shrine], popularly called the Shimogamo-jinja, is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto, in conformity with....**”とする。後ろの“for the benefit of all of mankind”を“**for the benefit of people all over the world**”と、より平明にする。

「本文」の原文1について、「歴史的に重要な場所であることが認められてきている」という内容であるので、“**has long been recognized as...**”とする。:「コロン」以後は「理由」が明確であるので、“**because**”節を用いる。“have turned up”はより平明に“**have shown**”とする。“the Jomon period (ca. 10,000 BC—ca.300 BC)”は、福島（2015.9）に従い、“**the Joumon-jidai [-period] (10,000 BC—300 BC)**”とする。

原文2について、「平安京造営」を節で表し、複文とする。「平安京」が当時の日本の首都、京都であることを明示し、“**Heian-kyou (Kyoto) (the capital at that time)**”とする。「国家鎮護の神社として」は簡潔に“**...as a shrine for the pacification and protection of the nation.**”とする。

原文3について、:「セミコロン」以後を独立させ、それをさらに2文に分ける。“**By the beginning of the 11th century**”を文頭とし、動詞を完了相とする。同様に、「式年造替が実施されてきました」も完了相とし、“**...it had ritually been restored at regular intervals....**”とする。それに続く「応仁・文明の乱」は単純過去を用い、文を独立させる。単に、「応仁の乱」“**the Ounin-noran [-war]**”とする。「焼亡しました」“were burned to the ground”を「灰と化した」の意味をもたせ、“**were burned to ashes**”とする。

原文4について、関係詞節 “In the reconstruction that took place” を用いずに、単純に “**When the Kamo-mioya-jinja was restored in 1581....**” と複文化する。

原文5は、「本殿が8回造替され」と「現在の東本殿・西本殿は」が “and” で接続されているが、文を分ける。さらに後者を別段落にする。前者は、江戸時代の間のことなので、現在完了の使用は文法的に誤りである。“**had been rebuilt eight times**” と過去完了を使用する。「本殿」は、神社の構成素であるので、小文字で始め、“*honden*” とする。

原文6、原文7は、原文5中の「現在の東本殿・西本殿は」と共に、「現状」としてまとめ、別段落とする。

原文7中の二重の形容詞句分詞構造 “including the *noritoya*...”, “rebuilt in 1629”、双方共に、other buildings を修飾することを明示するために、“rebuilt in 1629” については、“**which were rebuilt in 1629**” と関係詞節に変え、“**Other extant buildings which were rebuilt in 1629**” とする。そして、“including...” については文として独立させ、“**They include the *noritoya* (ritual prayer hall).**” とする。“evoke the aura of the Shinto shrines of that era” は、より平明に “**evoke the atmosphere of the Shinto shrines of the *Heian-jidai***” とすることを提案する。

原文8は、「現在も行われている祭事」についての記述であるので、原文通り、別段落にする。「糺の森」の細かな説明は省略する。「京都三大祭り」は引用符を使用せずに、“**Kyoto’s three major festivals**” とする。

原文9「市民の憩いの場となっています。」は、案内板中でわざわざ説明する必要はないことと思われるので省略する。

賀茂御祖神社の、修正案を加えた「世界遺産登録」「本文」の記述と、「登録年月日」の記述は以下の通りである。「本文」の修正案の語数は257語である。「登録年月日」には、加筆修正を加えていない。

The Kamo-mioya-jinja [-shrine] , popularly called the Shimogamo-jinja, is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto, in conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO). It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of people all over the world.

The Kamo-mioya-jinja [-shrine] has long been regarded as a site of great historical significance because archaeological excavations at its original site have shown its relics of the Joumon-jidai [-period] (10,000 B.C.-300 B.C.).

When Heian-kyou (Kyoto) (the capital at that time) was established, it counted numerous worshippers in the Choutei (Imperial Court) as a shrine for the pacification and protection of the nation. By the beginning of the 11th century, it had been developed into its present form. Thereafter it had ritually been restored at regular intervals until the 14th century. During the Ounin-no-ran [-war] (1467-77) most shrine buildings were burned to ashes, together with the surrounding forest, Tadasu-no-mori .

Rou-mon (tower gate)



When the *Kamo-mioya-jinja* was restored in 1581, its entire precincts were arranged in the same condition of the *Heian-jidai*. The *honden* (main shrine building) in its precincts had been rebuilt eight times during the *Edo-jidai* (1603-1867).

There are now two *honden*, the *higashi* [east] one and the *nishi* [west] one, which were built in 1863. They are built in the *nagare-dzu[du]kuri* (“flowing”) style of architecture, which shows clearly the ancient architectural form. Other extant buildings which were rebuilt in 1629 evoke an atmosphere of the Shinto shrines of the *Heian-jidai*. They include the *noritoya* (ritual prayer hall).

The *Kamo-mioya-jinja* carries on the traditions of various ancient arts, rites, and festivals, including the *Aoi Matsuri*, one of Kyoto’s three major festivals. Tales of *Tadasu-no-mori* and its natural beauty have been handed down in *The Tale of Genji* and other innumerable works of literature.

Date of Inscription Resolved on December 15 and inscribed on December 17, 1994.

Kyoto City

本稿では、画像8の案内板について論じた。画像8の京都市作成の案内板によると、寛永6年に造替された祝詞舎以下の建物が残り」とされている。しかし、現地の重要文化財に指定されている建造物の案内板、「橋殿」、「舞殿」、「神服殿」では「寛永5年(1628)の造替」とされている。「本文」第四段落の“Other extant buildings which were rebuilt in 1629....”の“1629”は、“1628”とするべきかもしれない。

2. 4 賀茂別雷 (かもわけいかづち) 神社 (通称、「上賀茂神社」)

9



10



画像9は、賀茂別雷 (かもわけいかづち) 神社 (通称、「上賀茂神社」) の楼門 (ろうもん) である。

福島 一人：観光英語 (12)：京都市の観光名所、龍安寺、仁和寺、賀茂御祖神社、賀茂別雷神社に見られる案内板の英語

賀茂別雷神社は、賀茂御祖（かもみおや）神社（通称、「下鴨神社」）と共に、京都市で人気のある神社である。画像 10 は、当神社の京都市作成の案内板である。9、10 共に、2016 年 11 月に執筆者自身が撮影したものである。

日本語説明は、以下の通りである。福島（2016.7）に準じ、（通称、「上賀茂神社」）を入れ、「賀茂別雷（かもわけいかづち）神社」の文字サイズを大きくし、太字にすること、（振り仮名）を入れることを提案する。

賀茂別雷（かもわけいかづち）神社（通称、「上賀茂神社」）は、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）で採択された世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約に基づき、「古都京都の文化財」のひとつとして世界遺産リストに登録されました。このことは、人類全体の利益のために保護する価値のある文化遺産として、とくに優れて普遍的価値をもっていることを国際的に認められたこととなります。

賀茂別雷神社の創建は古く、7 世紀末にはすでに有力な神社となっており、さらに平安建都以降は国家鎮護の神社として朝廷の崇敬を集めていました。社殿は 11 世紀初頭までに現在に近い姿に整えられましたが、その後衰微し、寛永 5 年（1628）に再興されました。この時の整備は境内全体におよび、記録や絵図を参考に平安時代の状況が再現されています。再興後は本殿造替が 7 回実施されており、現在の本殿と権殿（ごんでん）は文久 3 年（1863）に再建されたものです。

国宝の本殿と権殿（ごんでん）は同大・同形式の建物で、東西に並んで配されています。正面 3 間、側面 2 間で正面に向拝（こうはい）をつけた流造（ながれづくり）ですが、正面の流れを長くしている点にこの本殿形式の古制がよく示されています。境内にはこれらのほか、寛永 5 年に再建されたと考えられる拝殿以下 34 棟の重要文化財の建物が残り、古代の神社景観を現在に伝えています。

なお、当神社は京都の三大祭のひとつである葵祭が催されるなど、様々な神事や祭事の舞台としても親しまれています。

登録年月日 平成 6 年（1994）12 月 15 日決定、17 日登録
京都市

英語説明は以下の通りである。「世界遺産登録」、「登録年月日」の記述を除いた「本文」は、3 段落 10 文、258 語からなる。賀茂御祖神社のものと同様、セミコロンの and による長文化、独立分詞構文の並列による長文化の例が見られる。本文中の文末の赤い数字は執筆者による。

In conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO), Kamo Mioya Shrine is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto. It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of all of mankind.

Kamo Wakeikazuchi Shrine is quite old; by the end of the 7th century, it already commanded considerable

influence, and following the establishment of Heian-kyo (Kyoto) as the nation's capital, it attracted many worshippers among the aristocracy as a shrine dedicated to the pacification and preservation of the nation.¹ The shrine buildings existed in their present form by the beginning of the 11th century, but gradually deteriorated thereafter, and were restored in 1628.² That restoration encompassed the entire shrine precinct, and was carried out with reference to historical records, paintings, and sketches, so as to faithfully reproduce the shrine as it had existed in the Heian period (794-1184).³

Following the restoration, the *honden* (main shrine building) was rebuilt seven times; the present structure and the *gonden* (associate shrine building) were rebuilt in 1863.⁴

The *honden* and *gonden*, both National Treasures, are of the same size and shape, and are situated along an east-west axis.⁵ They are built in the *nagare* or “flowing” style, with *kohai* (prayer porticos) in front.⁶ The elongated front roof or *nagere* illustrates the ancient style of the main shrine building's architecture.⁷ In addition to these two structures, the shrine contains a *haiden* (worship hall) and 33 other shrine buildings, all believed to date from the 1628 restoration, and all designed Important Cultural Properties.⁸ They provided a sense of how Shinto shrines looked in very ancient times.⁹

This shrine is well-known as the setting for a variety of ritual ceremonies and festivals, including the *Aoi Matsuri*, one of Kyoto's “Three Major Festivals.”¹⁰

Date of Inscription Resolved on December 15 and inscribed on December 17, 1994.

Kyoto City

「世界遺産登録」、「登録年月日」を除いた「本文」の記述について、日本語説明、英語説明共に、「賀茂別雷神社の歴史(7世紀末～)」→「11世紀初頭までの整備とその後の衰微、江戸時代(1628年)の再興」→「1863年の、現在の本殿と権殿の再興」→「現在見られる本殿と権殿の詳細、他の建造物など」→「葵祭をはじめ、現在も行われている神社の祭事」の順に記述している。つまり、篠田(2014)における、「時間順」の記述である。作成者が歴史面に重点を置き説明しており、「古都京都の文化財」のひとつとして、世界遺産に登録されているので当然のことであろう。従って、この記述順について賛成できる。日本語説明、英語説明共に、「本文」の情報量は適量と感じられる。

「世界遺産登録」の記述は、以下を提案する。「賀茂別雷神社(通称「上賀茂神社」)」の英文字表記を文頭にする。“*jinja*”が“shrine”を意味することを明示する。当該観光地の名称を文頭に置き、“**The Kamo-wakeikadzu[du]chi-jinja [-shrine], popularly called the Kamigamo-jinja, is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto, in conformity with....**”とする。後ろの“for the benefit of all of mankind”を“**for the benefit of people all over the world**”と、より平明にする。

本文の原文1について、:「コロン」以後は、7世紀終わりから、さらに、平安建都以後の具体的な説明であるので、文を独立させる。「7世紀末には有力な神社になっていた。」の内容であるので、完了相にし、より一般的なコロケーションを用い、“**it had already acquired considerable influence**”とする。さらに独立させた文“and”以後の“following the establishment of Heian-kyo (Kyoto) as the nation's capital, it attracted....”は、より平明に、“**After the establishment of Heian-kyou (Kyoto)(the capital at that time), it attracted many worshippers in the Choutei (Imperial Court) as a shrine for the**

pacification and protection of the nation.”とする。「当時の首都」(“the capital at that time”)と説明する。

原文2について、“By the beginning of the 11th century, the shrine buildings had been built in nearly their present forms, but gradually deteriorated thereafter.”「11世紀初頭までに…整えられていました。」で完了相を用い、「その後衰退し」は単純過去を用い、そこで文を終える。この段落の後の原文3、原文4は「再建」についてのことである。原文2の「1628年に再興されました。」は、独立した文にする。

原文3について、“encompassed”を“extended”と、「境内」は複数形を用いるのが一般的なので、“precincts”とし、“with reference to”を“referring to”と平明にする。「平安時代状況が再現されています。」は、“The Kamo-wakeikadzu[du]chi-jinja”を主語とし、独立した文とする。

原文4について、「本殿が7回造替された」と「現在の本殿と権殿は1863年に再建された」は、セミコロンで接続させずに文を分ける。

原文5について、日本語説明文中の「正面3間、側面2間」が英語説明では省略されているが、“...of the same size, about 5.5 meters across and 3.7 meters long from front to back, and of the same shape.”と補う。賀茂御祖神社の本殿の場合と異なり、1間＝6尺と換算した値と、実際に見た大きさがほぼ同じと思える。但し、今後正確な実測値をメートル法で入れるべきであろう。そして、「東西に並んで配されています」を“**They are situated along an East-West axis.**”と独立させる。尚、「国宝指定」の記述は後で、独立させた文で示す。

原文6について、「流造で（造られている）」は、“in the nagare-dzu[du]kuri (“flowing”) style of architecture”とする。福島(2017.1)に従い、直訳的説明は、“(“flowing”)”と表記する。

原文7について、“elongated front roof”は“nagare”の説明であるので、“**Their nagare (elongated front roofs)**”と()内に表記する。「本殿」と「権殿」の「流れ」ということを明示するために、“**Their.**”で始め、“**roofs**”としている。

原文8について、“all believed...”、“all designed...”と、同一文中で2つの分詞構文により、拝殿と、その他の建造物について説明している。尚、後者の“designed”は、綴りの誤りで、正しくは“designated”である。

分詞構文の並列は、語数は少なくなるが文語調で、案内板には馴染まないように思われる。また、前者は「1628年の再建」、後者は「(現在の)重要文化財としての地位」で、内容が異なる。「拝殿以下33建造物が重要文化財に指定されている」は、前述の本殿と権殿に合わせて独立した文にする。

原文9について、「古代の景観を現在に伝えています」という現在の様子を明示するべきで、本動詞の時制を単純現在とする。

原文10について、「様々な神事や祭事を今も続けていることで知られている。」の意味を明示し、“**...well-known for carrying on....**”とする。「三大祭」を固有名詞的に考え、“Kyoto’s “Three Major Festivals””としたのであろうが、単純に、“**Kyoto’s three major festivals**”とする。

賀茂別雷神社の、修正案を加えた「世界遺産登録」、「本文」の記述と、「登録年月日」の記述は以下の通りである。「本文」の修正案の語数は283語である。

The Kamo-wakeikadzu[du]chi-jinja [-shrine], popularly called the Kamigamo-jinja, is inscribed on the World Heritage List as a Historic Monument of Ancient Kyoto, in conformity with the Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage adopted by the United Nations

Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO). It is thus internationally recognized as a place of exceptional and universal value : a cultural heritage site worthy of preservation for the benefit of people all over the world.

The *Kamo-wakeikadzu[du]chi-jinja* [-shrine] is quite old. By the end of the 7th century, it had already acquired considerable influence. After the establishment of *Heian-kyou* (Kyoto)(the capital at that time), it attracted many worshippers in the *Choutei* (Imperial Court) as a shrine for the pacification and protection of the nation. By the beginning of the 11th century, the shrine buildings had been built in nearly their present forms, but gradually deteriorated thereafter. The restoration work in 1628 extended over the entire shrine precincts, referring to the historical records, painting and sketches. The *Kamo-wakeikadzu[du]chi-jinja* was restored as it had been in the *Heian-jidai* [-period] (794-1184). After the restoration the *honden* (main shrine building) was rebuilt seven times. The present *honden* and the *gonden* (associate shrine building) were rebuilt in 1863.

Rou-mon (tower gate)



The *honden* and the *gonden* are of the same size, about 5.5 meters across and 3.7 meters long from front to back, and of the same shape. They are situated along an East-West axis. They are built in the *nagare-dzu[du]kuri* (“flowing”) style of architecture, with the *kouhai* (prayer porticos) in front. Their *nagare* (elongated front roofs) show an ancient style of architecture. They are both designated as national treasures. In addition to these two buildings, the shrine contains the *haiden* (worship hall) and 33 other shrine buildings, all of which are believed to date from the 1628 restoration.

They are designated as important cultural properties. Even now, all of the shrine buildings faithfully show the condition of the Shinto shrines in very ancient times.

The *Kamo-wakeikadzu[du]chi-jinja* is well-known for carrying on a variety of ritual ceremonies and festivals, including the *Aoi Matsuri*, one of Kyoto’s three major festivals.

Date of Inscription Resolved on December 15 and inscribed on December 17, 1994.

Kyoto City

4. おわりに

以上、京都市内の観光名所、龍安寺、仁和寺、賀茂御祖神社、賀茂別雷神社に見られる、「世界遺産登録」「登録年月日」が併記されている京都市作成の案内板中の、包括的説明を行う「本文」を中心に検討を加えた。

日本人と思える作成者の「単純化」の意図が、文を複雑にしている例を挙げた。分詞構造や関

係詞構造の同一文内での多用例である。“comprising...”、“arranged...”の分詞構 造が、“A rock-and-gravel garden”を説明しており、さらに関係詞節“in which...”で、「石庭」の意義を述べている龍安寺「石庭」の例を挙げた。分詞構文“all believed to date from the 1628 restoration”、“and all designed (designated of the 綴りミス) ...”が、“a *haiden* and 33 other shrine buildings”の付加説明を表している賀茂別雷神社の例を挙げた。

セミコロンやコロンによって、文を接続させている例が見られた。一般的にセミコロンやコロンは、文を区切って説明するものである。但し、仁和寺の原文5の例は、仁和寺境内の御影堂、二王門と中門、五重塔、という並列する名詞句をセミコロンで接続しており違和感をもった。一般観光客を主に対象とする案内板中では、セミコロンやコロンを使用するよりも、文として独立させ、あるいは、賀茂御祖神社の例の如く、接続詞を用いて前文との関係を明瞭化した方が、より平明な文になると思える。

本稿では、原文を生かす、という前提であるので、語数の削減案を挙げなかった。分詞構文を節や、文に変えることにより語数が増えた例もある。龍安寺の例では、情報量を増やした結果、語数を増加させた。案内板は、ホームページやリーフレットなどの記述と異なり、語数に留意すべきである。本来一般観光客を対象とすべきと考えるが、理想的な語数は、180語から250語程度と思われる。今後検討の余地がある。

記述順について、篠田(2014)では、一般文書について有用な提案がなされている。本稿執筆者は、歴史的建造物の案内板については、「歴史順」の記述、つまり、「時間順」の記述順こそが、「重要順」と考える。それゆえ、現地の案内板の記述順について、賛成である。

表記上、福島(2017.1)では、説明中の「直訳」的なものは、**The *Kin-kaku* (“golden”pavilion)**の如く、“ ”で囲むことを提案した。本稿でも、賀茂御祖神社の例を挙げ、「流造で」を“**in the *nagaredzu*[du]kuri (“flowing”) style of architecture**”とすることを提案している。

また、日本語説明文についても提案を行った。日本語説明文中に一般の観光客には読めないと思われる建造物などの名称に(振り仮名)を入れることの提案も行った。

本論文執筆にあたり、長岡技術科学大学名誉教授村山康雄氏に資料提供や助言をいただいた。仁和寺の朝川美幸様より「金堂」について貴重な情報をいただいた。これまでと同様、提案した英語のネイティブチェックはDavid Martin氏にお願いした。

感謝したい。

註

- 1) 格調が高いことより、一般人が理解しやすいことに重点を置き、綴字法などの規則性は一般文書ほど強くない。また、設置位置、色彩など、「視覚的認識の容易さ」も含まれる。「案内板」という点で、リーフレットやインターネットなどは、異なり、語数に制約がある。また、現在でも、地方では外国語案内板の数は少ないようである。讀賣新聞(2016.11.1)でも、訪日観光客が増加しているが、地方では外国語案内板の数が少ない旨、述べている。
- 2) 福島は、これまで「ウリ」と記してきた。「当該観光地のセールスポイントとなる事物」の意味である。『広辞苑』などは「売り」と表記している。本稿ではこれに従い、そして、「 」をつけ、「売り」と記す。

3) 篠田は一般文書の記述順について、以下を挙げている。

- (1) 重要な順に述べる (2) 時間順に述べる (3) 空間順に述べる (4) アルファベット順に述べる (5) 短い語から長い語、プラスからマイナスの要素で述べる

参考文献

- ブリタニカ・ジャパン編 (2013)『ブリタニカ国際大百科事典』小項目電子辞書版 東京:ブリタニカ・ジャパン
- Costello R. B., edit. (1991) *Random House Webster's College Dictionary*, Random House, Inc., New York.
- 福島一人 (2011.1)「観光英語 (1): 国宝天守をもつ松本城の案内板の英語」『情報研究』第44号、茅ヶ崎: 文教大学情報学部
- (2011.7)「観光英語 (2): 国宝天守をもつ、松本城案内板の英語と比較した姫路城、彦根城、犬山城の案内板の英語」『情報研究』第45号、茅ヶ崎: 文教大学情報学部
- (2012.7)「観光英語 (3): 重要文化財の天守を有する備中松山城、丸亀城、高知城、弘前城の案内板の英語」『情報研究』第47号、茅ヶ崎: 文教大学情報学部
- (2013.1)「観光英語 (4): 重要文化財の天守を有する丸岡城の案内板の英語」『情報研究』第48号、茅ヶ崎: 文教大学情報学部
- (2014.1)「観光英語 (5): 重要文化財の天守を有する宇和島城、伊予松山城、松江城の案内板の英語」『情報研究』第50号、茅ヶ崎: 文教大学情報学部
- (2014.7)「観光英語 (6): 世界遺産に登録されている広島県宮島の案内板の英語」『情報研究』第51号、茅ヶ崎: 文教大学情報学部
- (2015.1)「観光英語 (7): 日本の城郭などに見られる英語案内板の表記内容再検討と綴字についての提案」『情報研究』第52号、茅ヶ崎: 文教大学情報学部
- (2015.7)「観光英語 (8): 神奈川県の名所鎌倉に見られる案内板の英語」『情報研究』第53号、茅ヶ崎: 文教大学情報学部
- (2015.9)「案内板における日本の固有名詞などの英文字表記」『日本実用英語学会論叢』第21号、東京: 日本実用英語学会
- (2016.1)「観光英語 (9): 神奈川県の観光名所、三溪園、江の島などに見られる案内板の英語」『情報研究』第54号、茅ヶ崎: 文教大学情報学部
- (2016.7)「観光英語 (10): 神奈川県と静岡県の観光名所、箱根、静岡、浜松、伊豆などに見られる案内板の英語」『情報研究』第55号、茅ヶ崎: 文教大学情報学部
- (2017.1)「観光英語 (11): 京都市の観光名所、清水寺、鹿苑寺、慈照寺に見られる案内板の英語」『情報研究』第56号、茅ヶ崎: 文教大学情報学部
- 市川繁治郎他編 (福島一人他執筆) (1995)『新編英和活用大辞典』、東京: 研究社
- 京都府ホームページ「世界文化遺産 古都京都の文化財一覧」(オンライン)、入手先 (<http://www.pref.kyoto.jp/isan/>) (2016.07.05 参照)
- 国土交通省 観光庁 (2014.3)「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」(オンライン)、入手先 (<http://www.mlit.go.jp/common/001029742.pdf>) (2016.03.03 参照)
- 文部科学省 「ローマ字のつづり方」(オンライン)、入手先 (http://www.mext.go.jp/b_hakusho/)

福島 一人：観光英語 (12)：京都市の観光名所、龍安寺、仁和寺、賀茂御祖神社、賀茂別雷神社に見られる案内板の英語

nc/k19541209001/k19541209001.html) (2014.10.15 参照)

NAVER まとめ 「正しく知っておきたい「へボン式ローマ字」の基礎知識」(オンライン)、入手先 (<http://matome.naver.jp/odai/2138576450486274401>) (2014.10.15 参照)

新村出編 (2008) 『広辞苑』 第6版、東京：岩波書店

スクリーチ・タイモン、プライス・マーガレット、大島 明他編 (1999) 『トレンド英語日本図解辞典』、東京：小学館

柴田正昭 (2010) 『外国人のためのローマ字日本語辞典』 第三版、東京：東京堂

篠田義明 (1989) 『アメリカ英語最新ビジュアル辞典』 東京：研究社

——— (2014) 『ICT時代の英語コミュニケーション：基本ルール』 東京：南雲堂

小学館国語辞典編集部編 (2005) 『精選版 日本国語大辞典』 1巻、東京：小学館

竹林 滋他編 (2002) 『研究社 新英和大辞典』 第6版、東京：研究社

渡邊敏郎他編 (2003) 『研究社 新和英大辞典』 第5版、東京：研究社